

中央アルプス

小黒川本谷

メンバー:三井(単独)

遡行日:12年9月28日

小黒川は天竜川の支流で、木曾駒ヶ岳の北側に連なる将棋頭山に突上げている沢。

余り耳慣れない沢だがネットで検索すると数件の記録がヒットするのでそこそこは登られているようだ。

伊那インターで下り、登山口の桂小場に向う。

桂小場橋の少し先に小広い駐車スペースがあり、早朝着いたのだが既に4.5台の車がとめられていた。

ここは駒ヶ岳の大樽小屋ルート of 登山口になっているので、その登山者の車だろう。

こちらも手早く支度を済ませ、歩きだす。車道は直に途切れ、沢に沿って信大ルートの登山道がありそれを辿る。暫く行くと見上げるほど巨大な堰堤に行く手を遮られるが堰堤の左側に階段がありそれを登る。

沢は平瀬の河原状なのでそのまま沢沿いの登山道を行くが、2mほどの小滝が見えたところで入渓する。

小滝の後は何もなく平凡なゴーロが続くが足早に遡って行く。二俣になり左にマナイタダラ沢を分けると漸く、最初の滝らしい滝が現れる。

7mほどの滝でそれ程困難なものではなさそうだが落ち口に抜けるところが少し嫌らしそうだ。「さて、どうするか。」

直登しか選択の余地がないならともかく、ロープをだして登る滝でもないし…。あっさりと左岸から巻く。

単独の場合、些細な事故でも進退窮まる事態もあり得る。確信の持てない事は避けるに越した事はない。

「将棋頭尺」を左に分けると5m程の滝が数本あらわれるが再び平瀬のゴーロ。何か「スカ」っぽくて気持ちが高揚しないまま遡って行くと、沢の両岸の立ち木に赤テープが巻きつけられ、河原の石に矢印がつけられている。

地形図で見ると信大ルートと呼ばれる登山道が沢に一番接近しているところで、50mも登らぬうちにその登山道に上られるのだろう。

やる気を削ぐような赤テープに気分は惑わされるが振り切るように先に進む。

ゴーロの沢が続き忍耐の遡行となるが少し溪相が変わったかな、と感じたところで2段10mの滝。右から容易に登れる。

この辺りから漸く滝が次々現れる。

殆ど滝は快適に登れるもので、巻くにしても梃子ずるような事はない。

ようやくそれらしい霧囲気の沢となり、気分は高揚してくる。

快調に遡行していくと奥の二俣。どちらに進んでも大差はなさそうだが多少下山に有利な右俣に入る。

直ぐに急な多段のナメ。緩傾斜の滝、と称してもいいかな、という感じ。それが続いている。

沢を楽しめるのもこの辺りまで。沢は石の詰まった細かいレンゼ状となって高度を上げていく。途中、愛知大とネームの入った古い、ポロポロのテントが

落ちていた。

一体何があったのだろうか。ちょっと気色が悪いね。

沢は窪状も消え、急な草付の斜面になるのだが踏み跡がついている。思ったより入渓者が多いという事だろう。

その踏み跡のおかげで藪漕ぎもなく間もなく登山道に飛び出した。西駒山荘から少し下った辺りだった。

青空が広がっていて稜線を歩いている登山者も見える。何十年ぶりに将棋頭山のピークまで行ってみるのもいいか、と思ったがガチャを仕舞い、スニーカーに履き替えるとその気は失せ、そのまま大樽小屋を経由する登山道を下った。

元々、信仰登山の名残りの登山道なので整備されていて歩きやすく、ヒザに爆弾を抱えている自分には下り易い道で助かった。

「小黒川」は特にお勧めというほどでもないが日帰りの沢としては長さも難易度も適度で、秋の一日、気軽に愉しむにはいいかも。また初心者を連れて行くにはちょうどいい沢だとは思う。ご参考まで。

